

# 特別支援を必要とする児童の保護者がとらえた支援ニーズ（2）

○瀬戸 淳子  
（帝京平成大学）

秦野 悦子  
（白百合女子大学）

KEY WORDS: 特別支援児童 保護者 支援ニーズ

## 問題と目的

筆者らは、A 自治体における保育巡回相談事業の発達相談員として、長く保育者支援に関わってきたが、保育者が保護者支援を行う際に感じる困難性として、保育者と保護者との間で、子どもの発達に関する認識のずれが指摘されている（秦野・瀬戸、瀬戸・秦野 2015）。一方、保護者は、保育者からの支援をどのように捉えているのか、保護者の視点から捉えた支援ニーズの研究は十分ではない。そこで筆者らは、保育の中で支援が必要な園児の保護者が、園生活の中で、どのような支援を受け、小学校に移行したかについて検討した（秦野・瀬戸、瀬戸・秦野 2021）。保護者の支援ニーズ研究の一環として、本報告では、特別支援を必要とする児童の保護者を対象に、学校以外の場でどのような支援を受けているか、また学校の適応について誰に相談をしているか、他の親との関係はどうか、中学の進路についてどのように考えているか、について明らかにすることを目的とする。

## 方法

【調査協力者】小学校の 1 年生～3 年生で、①通常級に在籍し、放課後等デイサービスを利用している児童 164 名、②通常級で通級指導教室を併用している児童 137 名、③特別支援学級に通っている児童 87 名、④特別支援学校に通っている児童 24 名、の母親 412 名である（1 年生 172 名、2 年生 138 名、3 年生 102 名）。

【調査期間】2020 年 12 月

【調査内容】保育巡回相談を実施した保護者を対象に行った保育支援ニーズに関するアンケート調査（秦野・瀬戸（2020）と、日野ら（2018）、宋ら（2004）、三宅（2012）の学校における支援ニーズに関する調査の質問項目を参考に、19 の質問項目からなる「保護者がとらえた園生活および学校生活」調査を作成した。

【手続き】筆者らが作成した質問紙調査項目について、Web 調査（調査委託先：（株）マクロミル）を利用してデータを収集した。なお、調査の参加については調査協力者の自由意志に基づいたものである。

【分析の対象】本研究では調査の質問項目のうち、Q6「学校における他の親との関係」、Q7「学校での適応について相談する相手」、Q8「児童が通っている専門機関」、Q10「中学の進路についての考え」を分析対象とした。

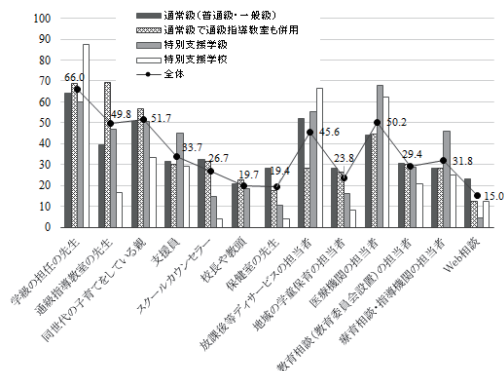


図2 相談先

## 結果と考察

### 1) 児童が通う支援の場と相談先

児童が通っている支援の場について、3 件法の回答のうち、「ときどき」「よく」通っている割合を示した。全体の 70%が放課後等デイサービスを、また 67%が医療機関を利用していた。

児童の学校での適応についての相談先としては、全体として学級担任の先生が一番多く（66%）、次に同世代の子育てをしている親、医療機関の担当者、通級指導教室の先生が約 50%、放課後等デイサービスの担当者が 46%と多かった（図 2）。

### 2) 学校の他の親との関係

学校での他の親との関係について、4 件法の回答の「まったくあてはまらない」を 1 ～「とてもあてはまる」を 4 として各項目の評定平均値を算出した結果が図 3 である。自分の子どもについて、「どこまで他の親に話せば良いか迷う」傾向が高く、「遠慮がありつきあうのに疲れる」「親同士のつながりが無い」という回答も比較的多かった。在籍級別にみると、特別支援級に在籍する児童の親は、他の群と比べ、6 項目中 4 つの項目で数値が高く、他の親との関係性に悩みがある様子が窺われた。

### 3) 中学への進路に関する考え

中学進学までには時間があるが、現在の在籍級を中心に考えている保護者が多かった。しかし、特別支援級に在籍する保護者は、他群に比較し、現在の在籍級以外である特別支援学校や通常級を考えている保護者も多かった。

特別支援級に在籍の保護者は、他の親との関係や中学への進路について、他の群とは少し異なる様相がみられた。現在の学校での児童の適応についてどのように捉えているか、他の項目と合わせて今後分析していきたい。

（本研究は JSPS 科研費 18K03046 の助成を受けた）

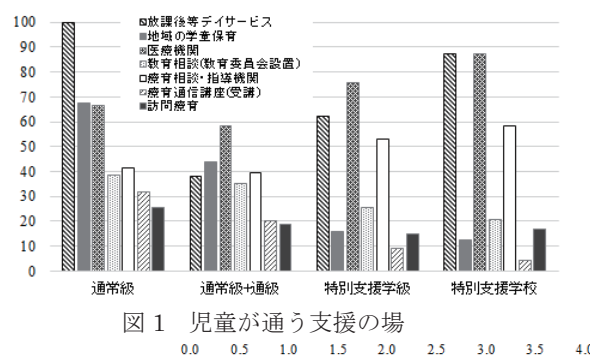


図1 児童が通う支援の場

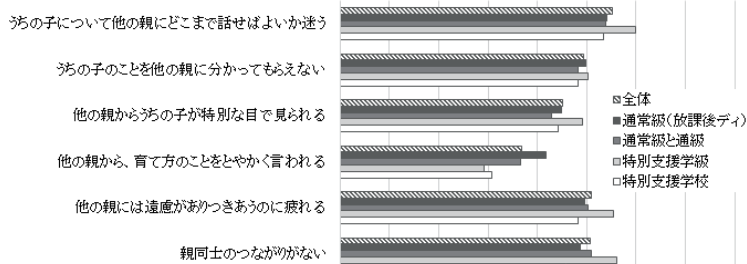


図3 他の親との関係（SETO Junko, HATANO Etsuko）